

## 1. 授業評価アンケートに対する感想

- 平成 19 年度から開始された大学院授業評価の年次推移をみると、平成 25 年度は対前年度で見ると多少後退した印象となっている。しかし、特に否定的な意見が増えたという状況ではない。
- 授業評価項目では、「この授業に意欲的に取り組めたと思う」が 55.7%（前年 74.9%）、「授業内容をよく理解できたと思う」が 38.6%（前年 56.3%）、「この授業は期待していた通りの内容だった」については 51.3%（前年 69.3%）などの項目が平成 24 年度に比較して僅かながら後退しているが、「そう思う」「ややそう思う」を含めるといずれも肯定的な評価が 90%前後を占めている。  
また、自由記述では、授業に対する肯定的な評価に関する件数が、平成 24 年度に比べ大きく増えていることから（23 件→87 件）、各教員が授業において工夫を行っていることが評価されていると言える。  
今後とも院生が授業に積極的に取り組めるように配慮するとともに、期待した授業内容となるよう努めてまいりたい。
- 授業に対する肯定的な評価として、
  - 1) 日常のエピソードを通して、最新の医療情勢が理解できて楽しく学ぶことが出来た授業であった。
  - 2) 統計の知識など研究に取り組む上で大切な内容を盛り込んでいただいた。
  - 3) 新しい情報や研究への取り組み方など院生として大切な事項について教えていただいた。
  - 4) 質問しやすい状況を作ってください楽しい雰囲気の中で授業を受けることができた。などの意見が寄せられた。今後も考慮して推進していくべき内容である。
- 一方、授業に対する要望事項として、
  - 1) 授業によってはもう少しディスカッションできる時間はほしい。
  - 2) 研究演習Ⅰで学んだ内容が研究演習Ⅱの内容につながるような内容にしていきたい。
  - 3) 院生全員が授業中に発表する場合には、発言の時間配分などに留意して均等にしてほしい。などの意見が寄せられている。今後配慮していかななくてはならない事項である。

## 2. 授業において工夫した点

- 参画型の授業を多く取り入れた。
- 現在の社会において課題となっている事項について情報提供した。
- 新たな教授法としてケースメソッド法(実際のケースを素材に学生同士のディスカッションをする学習方法)を取り入れて、より実践力を育成できるように工夫をした。
- 医療に係る新たな制度や知見を反映させるように努力した。
- 院生のレディネス(特定の学習に必要な条件が学習者の側に整っている状態をさして用いられる)に合わせて研究テーマを焦点化し、実現可能で成果の上がる研究となるように努力した。
- 課題学習を通して目標の明確化、伝える力をつけるために学習教材の選択や発表の方法の検討など、院生とともに探求している。
- 院生は社会人であり職業人として経験した後、本学大学院に入学しているので微生物学の知識は過去のものとなっている状況が多く見られる。このため、感染制御学領域の「感染制御学特論Ⅱ(臨床微生物検査学)」においては、パワーポイントを使用して、カラーコピーと必要に応じて資料の配布を行い、講義の重要ポイントを次回の授業にて10分間程度で試験を行った。この結果、講義のポイントは十分理解できたと思われる。
- 授業においては、毎回院生の知りたい内容や疑問を聞いて、それについてできるだけ応える努力をしているので、今後もこの方式を取り入れていきたい。

## 3. 授業評価結果を今後の授業にどの様に生かしていくか

- 全体的に高い評価の中でも低い項目もあったため、その点を踏まえて今後の授業に生かしていきたい。
- プレゼンテーションや主体的な発言を取り入れた授業が高い評価を受けているので、次年度も院生が主体的に取り組めるような授業をしたい。
- 授業において、自分の意見が言えなかったという指摘があり、事前に何を準備し発言をするのかまで確認して、研究演習内で意見が自由に言える環境づくりを行いたい。
- 院生の中には大学院での研究そのものを漠然としか捉えていない場合があり、研究に対する理解が乏しい者が存在する。そのため、オリエンテーションを十分に行っていく必要がある。
- 次回のシラバス作成時に、科目責任者を明確にして改善し、早い段階で院生に授業計画を示したい。そうすれば、院生が職場との調整もしやすくなると思われる。
- 臨床経験の豊富な院生に対しては、教育内容や院生自身の目標を明確にして指導を行っていきたい。
- 授業において留意すべき点として以下の事項が挙げられる。
  - 1) シラバスに沿った授業内容とする。

- 2) 適切な教材・教具を使用する。
- 3) 質疑応答の機会を作る。
- 4) 限られた授業時間を適切に活用できるようにする。
- 5) 教員は授業に対して熱意、意欲を持つ。
- 6) 院生のレベルを把握して適切な授業を行う。
- 7) 最新情報を取り入れる。
- 8) 院生同士及び教員とのディスカッションができる雰囲気を作る。

#### 4. その他

- 自由記載の項目への記載事項について、項目のみの記載では具体的にどのように改善すべきか迷う点があるため、より具体的な記載を希望する。
- 教員としては、院生が自ら考えて行動できる能力を培える教育を探求し実行していきたいと考えている。そのため、大学院生として多くの本や文献を読み、積極的に授業や演習に取り組み、自信をもって頑張っていたきたい。
- 日常の業務に役立つように、講義内容を吟味して準備に時間をかけ理解しやすい授業にしていきたいと考えている。